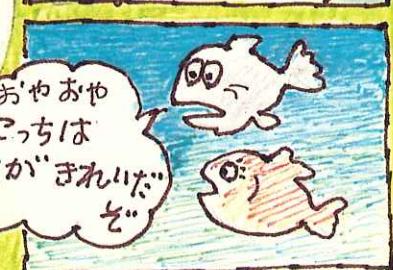


かわほん 川の本

通巻 第4号 / 1978・春



カッパ川のクリーン大作戦



新潟県河川協会
新潟県



財団法人

河川環境管理財団

監修・建設省河川局

とし くみし わたくし
都市で暮している私たち
 にとって川はどんな
 働きをしているの
 だろう。

特集 川と都市

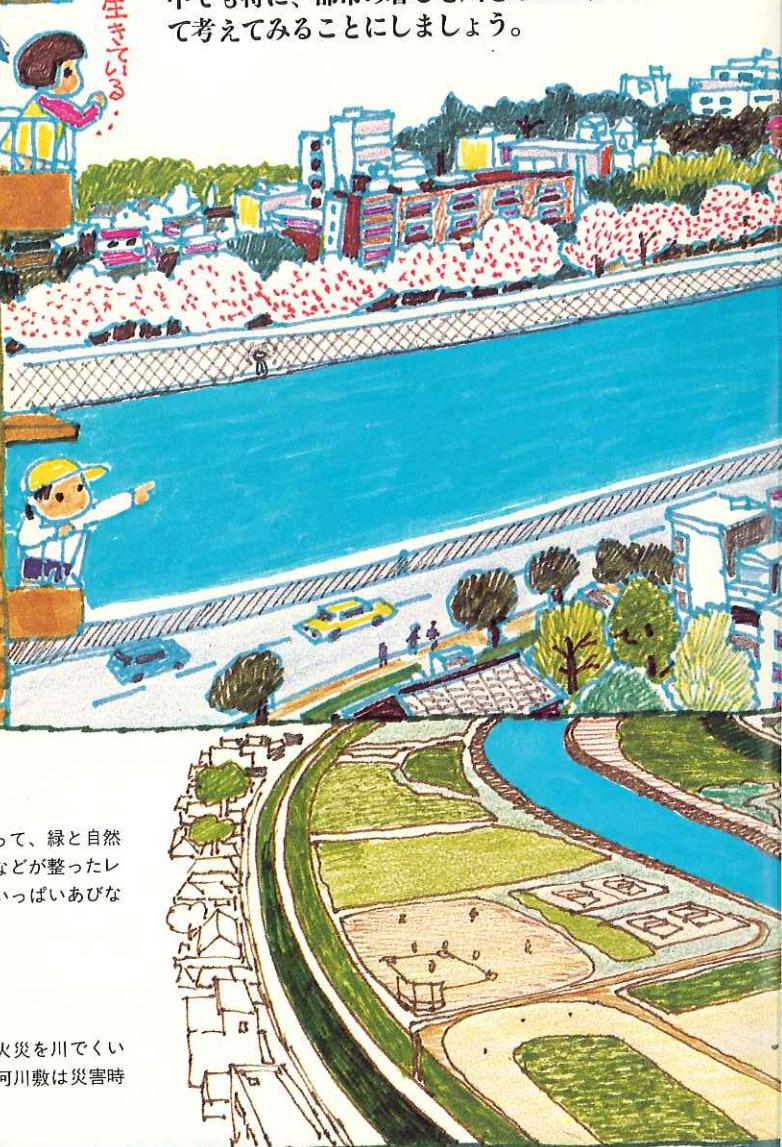
川と私たちの暮らしとは、昔から切り離すことのできない深いつながりがあります。今回は、その中でも特に、都市の暮らしと川とのかかわりについて考えてみることにしましょう。

《都市の暮らしと、川の恵み》

都市が生まれるキッカケのひとつは、そこに川が流れていたことです。

川は、豊かな飲料水、生活用水をひとびとにもたらしてくれたばかりでなく、各地のさまざまな産物を大量に運ぶための大切な通路でもありました。こうして川のほとりに人が集まり、商業や産業がさかえて、都市が発展してきました。

ところで、現代の都市はどうでしょう。一見、私たちの毎日の暮らしと川とはなんのかかわりあいもないようにさえ思えますね。しかし、私たちは目に見えない数多くの恩恵を、実は川から受けています。

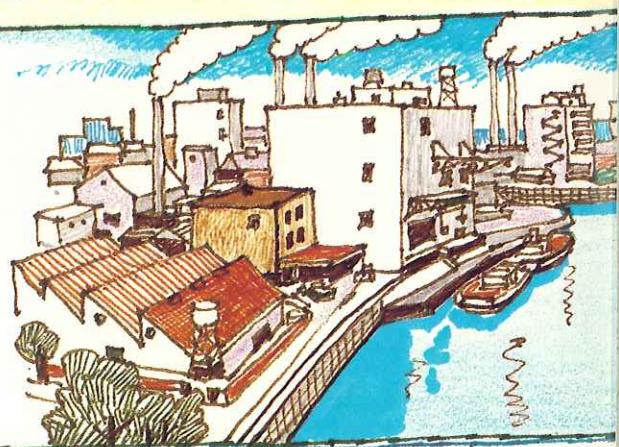


オープン・スペース

堤防で守られた川の両側は、都市に住む私たちにとって、緑と自然を残した“いいいの場”です。また、スポーツ施設などが整ったレクリエーションの場もあります。みんなが太陽をいっぱいあびながら、のびのびと遊んでいます。

防災ゾーン

川で意外に見落されているのが、防災の働きです。火災を川でくい止めたり、騒音や空気の汚れを防いだり、また広い河川敷は災害時の避難広場として利用できます。

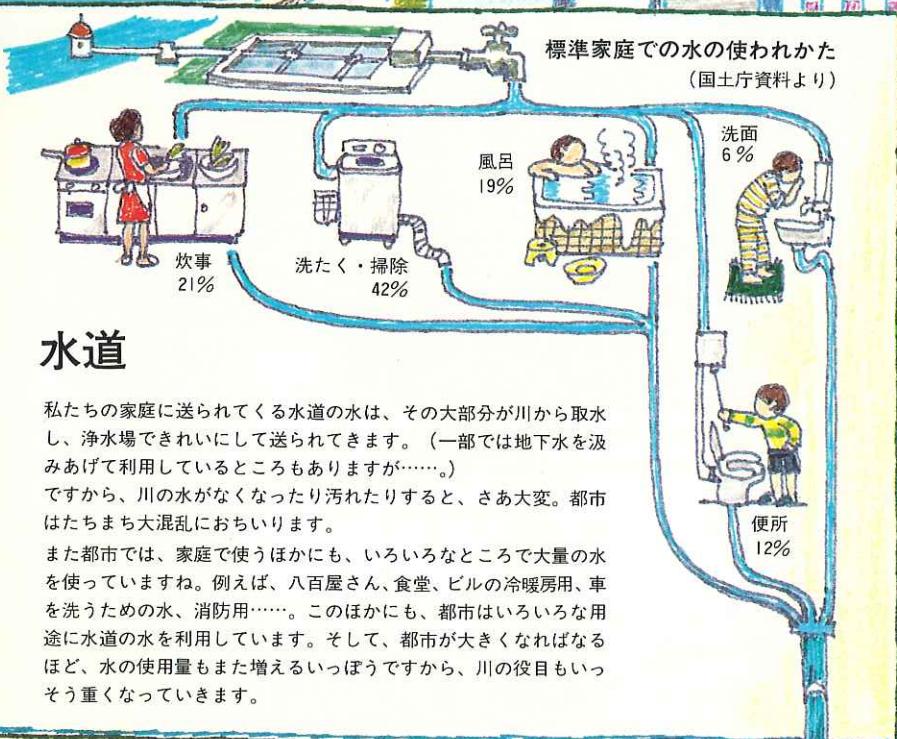


工業用水

都市とその周辺では、工業が盛んです。そしてその工場では、水を大量に使うところが少なくありません。こうした工業用水も、その大部分が川の水を利用しています。

交通路

川を利用した船による運搬は、鉄道や道路の発達で昔とはくらべものにならないほど減ってしまいました。しかし、河口に近い川べりをよく見てみると、大きな倉庫や各種の加工工場などがいっぱい建ち並んでいます。川は、都市へさまざまな物資をとどける中継ぎの場所として、今も大きな役割を果たしているのです。



排水

都市では、使用した水を主に下水道に流しますが、この水はふたたび川へもどってきます。ですから污水処理の施設がしっかり整っていないと、川はたちまち汚れてしまいます。しかも、雨水や都市がはき出す下水道の水などを一手に引き受ける川は、都市が巨大化するにつれて、ますます大きな負担を背負うことになるのです。

もしも
堤防が
やぶれたら
たいへん
なのだ



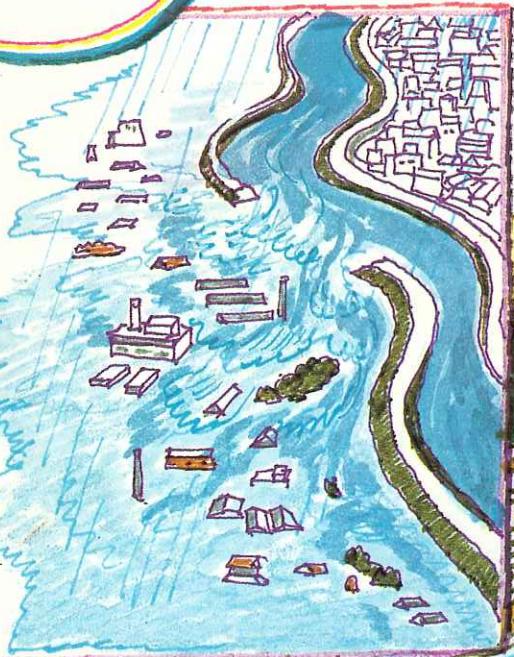
とし
まいがい
都市を水害から
まち
かわ
かいわ
せい
ひ
**守るために、どのような
川の整備がおこなわれて
いるのだろう？**



《水害に弱い都市》

都市は、川の恵みをいろいろなかたちで利用しながら現在のように発展してきましたが、いっぽうでは、川のもたらす災害をどうやって防いでいくかということが、都市にとっての大きな課題もありました。

現在の都市はどうでしょう？ 人口が増え、住宅地などの開発がどんどん進んだ結果、最近では大雨の時に川へ流れこむ水の量が以前よりずっと多くなり、水害をおこす危険があちこちで高まってきています。また、川のはんらんによって被害を受ける範囲や失われる財産が非常に大きくなってきたのも、今日の都市の特徴です。



堤防

川の守りの第一は、なんといってもまず堤防です。日本の堤防整備は世界でも有数で、その総延長は約17,000kmにも及びます。

また、水の勢いに負けないように堤防を強くする護岸改修や、高潮に備える嵩あげなども、国の計画にそって着々とすすめられています。

しゅんせつ

上流から流れこんだ土砂や、たまたったヘドロなどを取り除いてやる工事です。水の流れをよくすると共に、川をきれいにする役目もかねています。

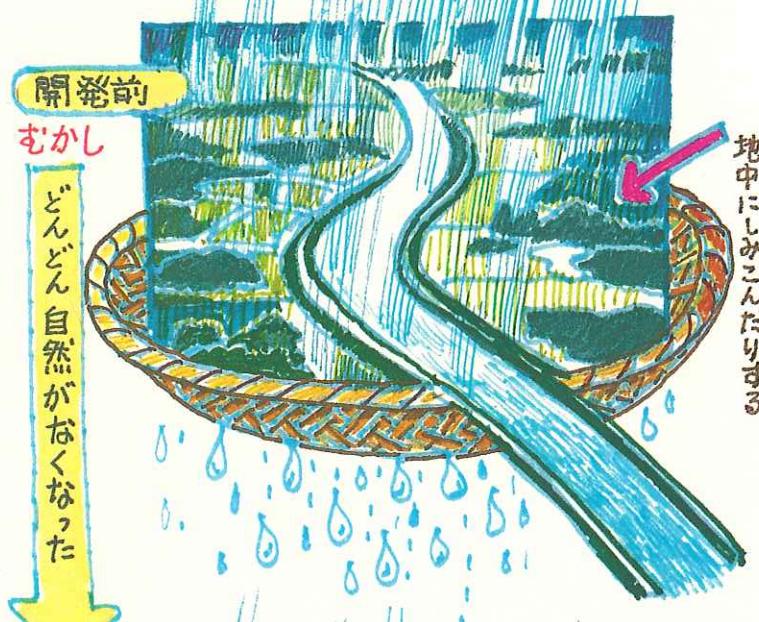




都市が大雨にヨワイのは どうしてだろう?



《大変だ！ 雨水の行き場がない》



水が地表にたまつたり
地中にしみこんだりする



でもこの水は
川へ流れこむので
こんどは川がたいへんだ

都市周辺の森林、原野、田畠などが都市化されると、これまで雨水をたたえて貯水していたところがなくなるため、雨水はすぐに川へ流れこむことになります。

周辺ばかりではありません。市街地では空地や庭がだんだん少くなり、家や道路や舗装された広場や駐車場などに変っていきます。そうすると雨水は、いやあうなく下水道から川へと行き場を求めます。

さあ、川は大変です。上流からの水と都市部からの内水の両方をさばかねばなりません。集中豪雨などに見舞われると川はいつぶんにあふれてしまい、雨水は行き場を失ってあたりを水びたしにしてしまう例も少なくありません。

また“0メートル地帯”などと呼ばれる地盤の低い密集地域も、都市にとっての難問です。さらにまた、大地震があきた時の耐震対策も河川整備の上の大きな課題のひとつ。

しかも、都市化のスピードが速いため、河川の整備が追いつかないで立ち遅れたり、取り残されたところが、都市にはまだいっぱいあります。都市は、こうした困難を乗りこえながら、これからも水害とのたゆみないたかいい——「川の守り」をあしすすめていくのです。

うすいちよりゅう
雨水貯溜…雨水が、下水道や川へまっすぐ流れこみ、河川の流量が増大するのを防ぐためには、雨水を少しでも多く一時地中や池などに貯えることを考えねばなりません。そのひとつがこの雨水貯溜対策です。国の施策として53年度から事業がはじまることになっており、今後の成果が期待されます。





川べりがこんなふうに なってくと楽しいな

《河川の環境をきれいに》

川はもともと、清らかな流れと両岸の緑によって、私たちに安らぎをあたえてくれる得がたい場所であり、また水遊びや魚釣りなどが楽しめる健康な遊び場だったはずです。

しかし今では、川は都市化の波に押されてそ

うした面影を失いそうになりつつあります。汚れがすんで魚の姿を見ることのできない川では、川があんまりかわいそうです。みんなで、少しでも川をきれいにするように心掛けましょう。川べりを、みんなの楽しい〈緑の広場〉にしていきましょう。



河川環境管理財団のしごと

私たちは、次のようなしごとを通して、みなさんに愛される川づくりのお手伝いをしています。

- ①よりよい河川環境を生み出すための計画づくり
- ②みんなで安全に遊べる楽しい川づくり
- ③川の美化をすすめ、また河川愛護の知識をひろめるしごと
- ④河川環境のこれからを考えるための調査や研究

毎年、4月は 「河川美化」の月間です

みんなの川を
みんなできれいに守ろう

魚たちや
鳥たちや
昆蟲たちが
川で暮し
川でたわむれ
さざめき合う

つくしんぼう君
お早よう
たんぽぽさん
こんにちは

川はみんなのもの
みんなの川を
みんなで大切にしよう

